

「総合表現」の新たな授業展開

New Class Development of “the Integrated Expression”

横井喜彦*・平中 学*・近江秀崇**

Yoshihiko YOKOI, Manabu HIRANAKA, Hidetaka OUMI

要 約

本学科では、授業「総合表現」の成果発表及び評価として、年度末に開催される「保育科発表会（現・短期大学部発表会）」にてステージ発表を行ってきた。今年度の「総合表現」では、シラバス作成時にこれまでの授業の変遷を振り返り成果と課題を概括し、いま学生に求められている課題やスキルをどのように育成するかを考えて、新たなねらいを策定するなど大幅な見直しを行った。

今回の報告は、この新たな授業見直しの取り組みを次年度以降につなげるために、今年度に行った「総合表現」の授業概要や、見直しの内容、前期の授業実践及びその課題をまとめた。

キーワード：

様々な表現方法、計画的、主体的、グループワーク

1. はじめに…「総合表現」科目設置背景と本学部における授業展開の変遷

本学保育科では、幼稚園教諭免許状と保育士資格を取得でき、平成 23 年度から教職課程の一部改正に伴い、それまで保育士選択必修科目に位置付けていた「総合表現」を教職課程の「保育内容・方法に関する科目」に設置することとなった。

保育士選択必修科目だけに位置付けられていた時期には、履修者は 20 人前後の少数の学生に限られていた。そのため毎年履修学生によって題材の選定を行い、一つの題材に音楽的要素、造形的要素、身体的要素を盛り込んで 3 人の教員が担当し、平成 19 年度より中京短期大学部保育科発表会において、瑞浪市総合文化センターの舞台上でミュージカルや劇などの発表を行ってきた。

平成 24 年度からは、改定された教職課程によって殆どの 2 年次学生が履修するようになり、授業方法も変化し、音楽表現、造形表現、身体表現の 3 つのグループに分かれ、それぞれの表現方法を中心としたミュージカルや劇、影絵劇などを制作し発表してきた。

平成 28 年度・29 年度には、全員で検討しなが

ら一つの作品を制作し発表する試みを行った。しかし、一年というスパンで学生がイメージを全員で出し合いまとめる作業も含め、計画通りになかなか進まず停滞する時期がかなりあり、困難な状況もあった。反面、困難を乗り越え全員で一つの作品をつくり発表できた達成感と一体感は醸成できた感がある。

昨年度までの課題のひとつであった学生が主体的に作品づくりに参画できる授業のあり方や、そのために必要な授業計画を考え直し、今年度は、基本的な表現方法を学んだ後にグループ構成を複数回変えて、主体的な表現方法を実践する授業へと大幅に変更を行った。

2. 30 年度「総合表現」授業の概要

1) 30 年度「総合表現」授業の到達目標

①表現活動の概要を知り、それらを組み合わせる新しい表現をつくり出す

保育現場における表現活動では、「造形」・「音楽」・「身体」それぞれの表現分野が複合的に混在している。例えば「劇づくり」を考えてみると、

*本学教授, **本学専任講師

大・小道具制作・ストーリーを歌・ダンスで、またしぐさ（演じているつもり）で表現など、表現手法を様々に組み合わせられている。他にもペーパーサート・人形・運動教具を用いたりボディパーカッションなど、多彩な表現方法を組み合わせた実践も多数報告されている。30年度「総合表現」では、「造形」・「音楽」・「身体」表現3分野の概要を学び、これらの表現を組み合わせたパフォーマンスの制作を積み重ねながら、新しい表現をつくり出す経験をするを目標とした。

②複数回のグループ活動を通してコミュニケーションを図り協力することができる

アクティブラーニングの必要性が求められている現在、グループワークも授業形態のひとつとしてクローズアップされている。30年2月松本大学松商短期大学にて「『つながり』を未来の学びに」をテーマに第2回短期大学フォーラムが開催され様々な授業事例を参考にしながら、「総合表現」にて小グループから創作活動を積み重ねて多様な関係形成を目標のひとつとして位置づけた。

③作品を計画的・主体的に取り組みつくり出し発表することができる

保育指針総則に「子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること（*1）」とあるように、表現活動においても子どもたちのイメージや思いを大切にしながら様々な表現活動として展開する取り組みが現場においても期待されている。「総合表現」が保育現場で活かされるためにも、制作過程において学生同士の対等なディスカッションからつくりあげていく経験と、計画的に活動をつくり出す経験が同時に必要となる。創制作活動を進めるにあたり「計画的」・「主体的」活動を体験すべき目標として位置づけた。

2) 授業の展開

課題として抽出されていた「授業計画の再構築」について、今年度は学生に明確な授業進行を示すために年間30コマの授業を共通する4つの

ステージとして展開すること（表1）にした。

（表1「30年度授業計画」）

授業①～④	基本的な表現技術の概要
授業⑤～⑦	課題1：小集団（7～8人）による創作
授業⑧～⑯	課題2：中集団（12人程度）による創作
授業⑳～㉔	課題3：ステージ発表に向けて…表現3分野による創作

①「基本的な表現活動の概要理解」

このステージは、授業のガイダンスもかねて1ヶ月ほどの期間行う（表2）。

（表2「基本的な表現活動の概要理解」）

日程	課題	授業概要
① 4 / 13	ガイダンス授業の概要 30回の授業の流れ 見通し・ねらい	・これまでの表現活動を基に行うこと ・絵本を基本的に題材として利用する ・子どもにみせることを意識して制作
② 4 / 20	3表現分野の概要と 基礎技術①	1) 身体表現 身体表現の始まり ・身体表現の種類・ワークショップ
③ 4 / 27	3表現分野の概要と 基礎技術②	2) 音楽表現 音楽表現の概要と 広がり・ワークショップ
④ 5 / 11	3表現分野の概要と 基礎技術③	3) 造形表現 造形表現の実際 ・その可能性・ワークショップ

「造形表現」・「音楽表現」・「身体表現」について、ランダムに3分割された学生たちが、それぞれの表現活動について学びを進める。内容は、1年次の授業（保育内容総論・保育内容「表現」・保育の表現技術として「造形」・「音楽」・「体育」・「言語表現」）で行われてきた概要を振り返ること、そして小グループで一定の時間内に話し合いパフォーマンスを制作するという経験をどの授業においても行う。

②課題1…小集団によるパフォーマンスの制作

課題1（表3）の流れは、まずガイダンスでは第1ステージの「3分野の講義+ワークショップ」を振り返り、グループ（ランダムに構成された7～8名の小集団）を発表し、表現する題材について提起する。題材は、「繰り返しのある絵本」というテーマでセレクトする。

次に様々な表現方法を駆使して発表することを伝える。この「様々な表現方法」のイメージを広げるために「おおきなかぶ」を具体例としてあげ、どのような表現方法が考えられるか出し合

う。寸劇や紙芝居などはもちろん、造形・音楽・身体表現から考えられる方法を出し合い、これらを組み合わせた「様々な表現」を考えさせる。

課題 1 の期間は 3 週間、3 コマである。ガイダンス・準備・発表を行う。

(表 3 「課題 1 : 小集団によるパフォーマンスの制作」)

⑤ 5 / 18 G 発表 題材選び	・ G は事前に教員で振り分ける ・ 繰り返しのある絵本…題材決定 ・ 表現方法を複数組み合わせる可能性を広げる
⑥ 5 / 25 相談 練習	・ 簡単な脚本 大道具など (必要ならば) ・ 通しの練習 ・ 場所を 3 力所に分行
⑦ 6 / 1 発表	・ 全員で評価を行う。評価基準は…… ・ 全員が関わっているか ・ 見せる意識はあるか ・ 題材に対してのレスポンス・作品としての評価

③課題 2 …中規模の集団によるパフォーマンスの制作

課題 2 (表 4) は、教育実習後からガイダンス・発表含めて 6 週間という期間をかけて行う (発表は 7 月 26 日 (木) 中京幼稚園・遊戯室にて子どもたちの前で行うことにした)。

課題 2 のねらいの一つ目は、中規模 (12 名程度) で 4 週間の準備後、完成度の高い作品として発表することである。前回よりも長いスパンを進めるためには役割分担と計画性が求められる。そこで二つ目のねらいは、脚本・進行 (演出)・音楽・大小道具など、役割分担を行うこと、毎回の準備の達成目標を掲げて計画的に進行する経験を行うことである。三つ目として、発表では実際に子どもたちに見せる目的もあり、対象である「子どもたち」を意識して作品をつくりあげていくことをねらいとした。また、発表においてはそれぞれ学生個人で各グループに厳正な評価 (順位を表記) を行うことも伝える。

毎週の運営に関連して、各グループの代表を集めて代表者会議を授業終了 10 分前に行う。グループごとの題材選択・進行状況・必要機材の確認・下見等の打ち合わせなど報告を行う。そのことで他のグループから刺激を受ける機会や、全体把握を行うことで学生が運営する意識を高める。また、代表者会議のメンバーが暫定的に 30 年度

短期大学部発表会実行委員のメンバーとなり、第 1 回実行員会で発表会の検討を始める。

(表 4 「課題 2 中集団によるパフォーマンスの制作」)

日時	授業概要	短大発表会との連動
⑧ 6 / 22	・ メンバー構成の発表 ・ リーダー 2 名を決定する ・ 4 回の授業計画を立てる ・ 表現方法について、希望を出し合う ・ 題材の選択案を出し合う (来週には決定)	・ 短大発表会準備会発 (教員) ・ 短大発表会までのタイムスケジュールをたてる
⑨ 6 / 29	・ 題材決定・表現方法を決定する ・ 役割分担 ・ 脚本着手	・ リーダー会議を行い各グループの進行状況確認
⑩ 7 / 6	・ 脚本完成 ・ 大道具づくり ・ セリフ・演技の練習 ・ 音楽等の設定 (データ入手まで) ・ 残り 2 回の授業計画確認	・ リーダー会議を行い各グループの進行状況確認 ・ 大道具等の確認
⑪ 7 / 13	・ 演技の練習 グループ内外で見せ合う ・ 大道具・小道具の作成 背景等も ・ 音楽データ入手 音楽に合わせて練習 ・ 来週の授業計画確認	・ リーダー会議を行い各グループの進行状況確認 ・ 大道具等の確認
⑫ 7 / 20	・ 通しの練習 ・ 発表の段取り決定・確認 ・ 最終確認を行う	・ 第 1 回実行委員会 実行委員 メンバー顔合わせ ・ リーダー会議・大道具・搬入確認
⑬ 7 / 26	・ 中京幼稚園にて全体で発表を行う ・ 各発表に対して、学生も評価を行う ・ 評価方法は順位をつける	・ 評価基準……総合点は順位で ・ 全員が関わっている・見せる意識 ・ 題材に対してのレスポンス ・ 作品としての評価・表現方法の工夫
⑭ 7 / 26	・ 発表	同上
⑮ 7 / 27	・ 後期ガイダンス ・ 評価発表・アンケート ・ 後期題材案	実行委員会より全体へアナウンス

④課題 3 (表 5) ステージ発表に向けて

課題 3 のねらいは、これまでの少人数の制作から学年全体でひとつのものを半年かけてつくりあげていくことと、舞台発表をイメージして表現作品をつくりあげることである。

2 年次全員でつくりあげていくことは、28~29 年度「総合表現」のなかでも全体の参加・計画性など困難さが懸案事項となっていた。課題 3 では、希望する表現活動 (造形・音楽・身体) を選び、3 つの作品を創りあげる。これらの作品をひとつのテーマのなかで「つながり」をつくり、いわゆるオムニバス形式の作品として完成させることを目指す。

制作の条件として、時間的にはひとつの作品を 30 分までとする。絵本も含めて原作があるものから作品をつくりあげる。さらに自分たちで作品研究を行い、独自に解釈を入れてもよいこととする。ただし作品に対して敬意を表して表現活動をつくりあげること、安易な表現を行わないこととする。

計画的に進められるように、グループのリーダーを選出し、リーダーを中心とした役割分担を早めに確立させ、全員でつくりあげる経験を重ねていけるよう留意する。このグループリーダーが、短期大学部発表会の実行委員メンバーとして、ゼミ代表・1年次代表とともに短期大学部発表会の企画・運営を行う。

(表5 「課題3 ステージ発表に向けてのパフォーマンスの制作」)

⑩	10 / 5	・全体で振り返りと課題4についてのディスカッション	・短大発表会のイメージ 具体的な準備について説明
⑪	10 / 12	・3表現グループに分かれて ・題材の選出 ・役割分担・後期計画の策定 ・脚本案の策定	・代表者会議 ・今後の計画を検討
⑫	10 / 19	・役割分担・計画の確認 ・各セッション会議	・第2回短大発表会実行委員会 ・代表者出席
⑬	10 / 26	・各セッションごとの準備 ・脚本の製作	・各セッションの長を組織 ……リーダーが全体把握 ・代表者会議にて、全体組織を把握
⑭	11 / 2	・各セッションごとの準備 ・脚本の決定・演出作業へ	・各グループ毎に、終了時に セッション長とグループ長・教員で確認
⑮	11 / 9	・各セッションごとの準備	・第3回短大発表会実行委員会(学園祭宣伝) ・代表者会議
⑯	11 / 16	・各セッションごとの準備	・代表者会議
⑰	11 / 30	・各セッションごとの準備	・第4回短大発表会実行委員会 ・脚本・演出会議……全体内容検討
⑱	12 / 7	・中間発表のための練習	・代表者会議 ・中間発表において舞台出演の最終的な決定
⑲	12 / 14	・中間発表	・3表現活動の発表を行う ・出入り含めて15分以内(一場面でも可)
⑳	12 / 21	・各グループでの振り返り ・課題抽出、 ・あと4回の計画を立てる	・第5回実行委員会 ・総合表現各グループで課題抽出 ・あと4回(+α)の計画をたてる
㉑	1 / 11	・各セッションごとの準備 ・脚本・演出会議	・第6回実行委員会(チラシ配布) ・全体スケジュール確認
㉒	1 / 18	・総合リハーサル①	・3回かけて総合リハーサルを行う ・それぞれ毎に課題を抽出し全体で検討
㉓	1 / 25	・総合リハーサル②	・課題を抽出し全体で検討 ・第7回実行委員会
㉔	1 / 29	・総合リハーサル③	・体調管理に気をつけること ・いち早く課題を抽出し全体で検討 ・全体調整を行う
	2 / 1	・前日準備	・舞台リハーサルで十分時間取って行うこと ・無理せず次の日に備えること
	2 / 2	・当日	
	2 / 4	・振り返り	・来年度に向けてのアンケート記入 ・授業アンケート記入

3. 30年度「総合表現」授業の到達目標からみる授業実践と課題

1) 表現活動の概要を知り、それらを組み合わせで新しい表現をつくり出す

「基本的な表現活動の概要理解」では、2年次78名をランダムに1/3に分け、「造形表現」・「音楽表現」・「身体表現」の担当教員が1コマずつ講義+ワークショップを行った。これにより1年次の振り返りやそれぞれの表現分野の概説を学び直せたこと、そして少人数で編成されたグループ

ワークの展開を可能にし、表現する喜び・協同する経験を得ることとなった。それぞれの授業概要は以下の通りである。

造形表現では、過去に行った発表会の造形表現に関わる事例報告の後、影絵劇にスポットを当て、影絵遊びのワークショップを行った。赤、緑、青の3原色のライトを用いて、様々な色の影をつくるというものである。7, 8人のグループごとに組ポーズなどを工夫し、カラフルな影をつくり、楽しみながら影絵の技法について理解するとともに影絵の可能性について考える機会となった。

音楽表現では、「BGM」や「効果音」に焦点を当てた活動を行った。言葉がなくても音楽で自然の音や喜怒哀楽の感情を表すことができることを説明し、「うずらちゃんのかくれんぼ(作・きもとももこ)」の絵本を使った活動につなげた。学生をランダムに6, 7人のグループに分け、音楽室にある楽器や教室にある身近なものを用いて「うずらちゃんのかくれんぼ」の話に合わせて自由に効果音やBGMを入れてもらい、グループ発表をするという取り組みを行った。

身体表現では、保育現場における身体表現の概念と歴史的変遷を講義した後、「パントマイム」の基本技術を伝え、4~5人グループで日常場面を「パントマイム」をつかかって発表を行う。あらかじめ示しておいた日常生活場面を組み合わせながら少人数で行えるパフォーマンスを発表した。

課題1のガイダンスで、絵本「おおきなかぶ」(福音館書店)を用いて、様々な表現活動を出し合った。やはり最初は「寸劇」・「歌」といったこれまで経験しすぐにイメージできるものが出された。言い換えると、集団でパフォーマンスを制作するときに「つくりかた」がイメージしやすい手法である。しかし「基本的な表現活動の概要」のワークショップで行われた「影絵」・「効果音」・「パントマイム」なども出され、他の表現方法と組み合わせられた形でも提起されたりした。例えば「朗読」という手法であっても効果音やバックでのパントマイムを組み合わせると新しい表現方法が生まれる。これまでになかったパフォーマンスが制

作できる可能性を学生たちは学ぶことができた。

実際の表現方法としては、「楽器演奏や、効果音として利用する」・「観客の空間を絵本のフィールドとして利用する」・「静かな朗読と肉声によるバックミュージック」・「小道具を用いた視覚に訴える表現方法」など、教員が想定した以上に「様々な表現方法」が発表された。「繰り返しのある絵本」が題材なので、同じパターンの表現方法を繰り返すことになる。そのため様々な表現方法にチャレンジすることが容易だったのではと考えられる。

課題1で各グループが取り組んだ絵本リストを示す(表6)。これ以外の候補作品も含めて、古い作品から新しいものまで多数の絵本が出された。テーマでもある「繰り返しのある絵本」は、ちょうど教育実習Ⅱの実施直前で学生の興味も標準が合い多彩な絵本がセレクトされた。

(表6：課題1で選択した絵本の題材)

A：ぐるんばのようちえん
B：てぶくる
C：おしくらまんじょう
D：テーブルのうえで
E：いろいろおんせん
F：おおきくなるっていうことは
G：とんとんとん！だれかな？
H：アルパカパカパカやってきて
I：へんしんマラソン
J：へんしんオバケ
K：どうぞのいす
L：ぽつぽつぽつだいじょうぶ？

学生同士の評価も当日行ったが、任意の得点を記載する方法をとったこともあり、どのグループも点数が高かった。またグループ数が多く3会場で行ったこともあり、全員の作品を見合うことができなかつたため、多彩な表現方法の組み合わせを実感する場面が作りきれなかつた課題が残された。

しかし、課題2(表7)では、逆に題材を選択するときに一番イメージしやすい「寸劇」に併せて選ぼうとするグループが現れた。人数が増えたことで、まとめるためにはやはりこれまで行って

きた「寸劇や歌」による表現に安易に頼る傾向がわかつた。

(表7：課題2で選択した絵本の題材と表現方法)

作品	表現方法
A：かいじゅうたちのいるところ	・かいじゅうをダンスで表現。母親のみえない演出、マックスの表情
B：あかすきんちゃんとおひきのこやぎ	・2つの物語をミックスしてオオカミ退治を行う。大道具の使い方
C：なつのおとすれ	・動きのある場面を、全員が全力で走り回る。会場内を使う発想
D：そらまめくんのベッド	・衣装でそれぞれの「豆」を表現する。あわせて台詞・音楽の使用方法
E：11ぴきのねこのえんそくパス	・すべてミュージックで進行、2つの物語を上手に組み合わせた作品
F：ともだちになっちゃった	・影絵(単色)を使って話を進める。

しかし、少なからず「様々な表現方法」に挑戦するグループも現れた。それらグループに共通する特徴として、最初に「表現方法」の検討を行っていたことが観察された。「絵本でみえる『動き』を身体で表現したい」・「ストーリー進行を『影絵』で表現したい」、「ミュージカル的手法を取り入れたい」と始める前に表現方法の検討を行うことで、イメージの共有を図り、役割分担もスムーズに行い計画的に進行していた。

課題2は、中京幼稚園のホールを借りて子どもとともに学生全員で観劇し評価を提出させた。学生たちの評価基準を考察すると、新たな表現方法の組み合わせに対する評価もみられたが、ビジュアルの面白さや単にストーリーのユニークさなども多く、多彩な表現の組み合わせに対する評価が掠れてしまった。実際に表現方法を評価基準の上位として考えていた教員と学生とのズレも、教員の反省の中で出された。

その要因として、「題材の選択」が関係していると考えられる。課題2では題材を選択する際に共通するテーマを設けなかつた。テーマを設けることで学生が「やらされている感」がでることを嫌ってのことであった。しかしそのため安易な表現方法でも展開できるよく知られた題材を選択するグループが現れた。明確なテーマに基づいた題

材の選択が、題材をどのように表現するのかを考えるきっかけとなった課題1の成果を軽視していたことが、振り返ることで明確になった。

課題3では、ガイダンス時に3作品の共通するテーマを設ける話し合いを進めた。しかしそのテーマの話し合いも学生の意識の差や「最大限共有しやすい」テーマに流される傾向も見られた。課題2において題材選択のための共通テーマを設けていれば、さらにテーマ選択の必要性も、そして表現方法の多様化に結びつけられるテーマ選択もできたかもしれない。今後の課題でもある。

2) 複数回のグループ活動を通してコミュニケーションを図り協力することができる

授業「基本的な表現活動の概要」において、少人数でのパフォーマンス制作を複数回経験した。そして課題1の6人という人数は、それぞれの顔が見え話しやすい様子がうかがえた。そして、一人一人の小さなアイデアを面白がることや、それを取り入れていながら作品がつくられていく過程も確認できた。この経験は、現場において子どもたちと気持ちがつながりともにつくりあげるプロセスと類似したものがある。「表現することが楽しいと思える」経験を共有するという点において課題1は、ほぼ達成できたと評価できよう。

課題2は、およそ1ヶ月の準備期間があるということ、13人という中程度の人数で進めるため、課題1では意識していなかった「計画」を立てる必要があること、そして「役割分担」が必要になる。それぞれのグループでは中心となる学生の存在が明確になるに従い、意見調整をしながら取り組みを楽しむところと、一定の方向にまとめようとしてしまう学生も見受けられる。そのため個別指導が必要な場面もあった。やはり構成する学生の雰囲気や中心となる学生の存在が、コミュニケーションを広げ深める要素として考えられる。そのため学生の達成感も差異があったように感じる。課題2の難しさと教員側の指導の検討が求められる。

課題3については、20~30人と大人数になることもあり、全員で合意するものと各担当が進めるものとを整理し、学生間でのコミュニケーションが図りやすい「仕組み」をつくりあげることが課題である(10月現在)。

3) 作品を計画的・主体的に取り組みつくり出し発表することができる

課題2において、すぐさま必要と思われる大道具小道具づくりを全員で行い、美術室が1~2週目に集中した。これはグループの取り組みに対する「計画的」が問われることとなった。学生から「慌ててしまう」・「他のグループのことが気になる」などの声も寄せられ、見通しを持った計画が立てきれずに不安を抱えてしまう姿もみられた。学生一人一人の経験に対する差異が大きく関係しているであろう。例えば社会人が取り組みの中で大きな役割を担っているグループなどは、計画的な取り組みにつながっていたりもしていることから分かる。前述した「構成する学生の雰囲気や中心となる学生の存在」とともに、「計画的な取り組みの経験」が、これからの課題として浮かび上がることとなった。

4. まとめ

現在、課題3が進行中である。課題3において、計画的・主体的にとり組み発表する経験が、新たなスキルを磨く経験につながるはずである。そのため、短期大学部発表会を照準に一回ごとの授業を主体的に自覚して進めることが必要であろう。長期計画を設け見通しをもって取り組む必要がある。そのためには、中心となる学生への援助と指導、分担された仕事を調整する役割を学生と教員とで担うこと、学生が主体的に進められる条件と仕組みを模索しながら構築することが、重要な課題となる。

今回のまだ途中である「総合表現」の経過をまとめた。半年の段階でも多くの課題を抽出することができた。課題3の充実と発表会の成功を目指

し、この経験をこれからの「総合表現」における内容の更なる研鑽につなげたい。

引用文献

- * 1 保育所保育指針, 第1章総則1. 保育所保育に関する基本原則 (3)オ, 2017-3

参考文献

- 1) 伊藤由美, 村田夕紀, 原祐子: “新設科目「保育内容・表現 (総合)」における学ぶと課題”, 四天王寺大学紀要, 第56号, pp.429-438, 2013
- 2) 大南匠: “保育者養成における総合表現活動の一考察: 赤ちゃん絵本を使った表現活動の実践から”, 長野県短期大学紀要, 第70号, pp.145-154, 2016-3
- 3) 内山尚美: “保育者養成校における総合表現活動の取り組み-「ミュージカル」の上行実践を通して”, 東海学園大学短期大学部紀要, 第56号, pp.429-438, 2013-9
- 4) 古屋祥子, 沢登英美子, 高野牧子: “保育者養成におけるオペレッタ創作活動の教育的効果-2011年度” 総合表現演習の実践から-, 山梨県立大学人間福祉学部紀要, 第7号, pp.31-47, 2012
- 5) 田代康子: 全国保育問題研究会第33回夏季セミナー「文学」基調提案, 季刊保育問題研究, 282号, pp.144-161, 2016-12